

鯉のぼりが空高く泳ぐ季節となりました。昨年、遂に経済バブルが崩壊し、資本主義社会も終焉を迎えようとしているように思えます。21世紀の社会はどのようなのでしょうか。

さて、今月号の表紙写真はキリンさんの「やー！こんにちは」です。人（キリン？）生を達観した穏やかな表情に見えます。このような老後を迎えたいものです。山城千秋先生の優しさが表れた心温まる写真です。

今月号のトピックスは先ず、平成20年度日本医師会医療情報システム協議会の報告です。世の中の趨勢で、医療情報のIT化は進めるべきで、事務的情報のIT化は特に有用だとは思いますが、IT化のコスト、特に多忙な医師の時間的コストをどうするのか、更に人間を相手にする医療において患者の感情や医師の記憶情報などをどこまでIT化できるのか、疑問です。幸地常任理事、ご指導をよろしくお願いいたします。

次のトピックスは感染症危機管理対策協議会の報告です。麻しん対策ですが、沖縄県のⅢ期、Ⅳ期のMRワクチン接種率は全国41位、43位と恥ずかしい限りで、宮里理事の奮闘を期待します。新型インフルエンザ対策では医療体制の整備は医師会が担うこととなります。最近の日医FAXニュースによれば、米国は新型インフルエンザの死亡率が最悪の場合、20%と想定しているとのことでしたが、わが国では2%と決めて対策を行っていますので、現場の混乱が危惧されます。

最後のトピックスは沖縄県学校保健・学校医大会の報告です。日本の食物アレルギーの第一人者である国立病院機構福岡病院小児科 柴田瑠美子先生にご講演をしていただき、またその

サマリーもお願いいたしました。今年度から学校生活でも食物アレルギー患者の管理指導票が必要になりますので、学校医の先生は対応をお願いいたします。柴田先生は私が23年前、日本アレルギー学会前理事長の西間三馨先生の下で働いていた時の上司です。ご講演ありがとうございました。

生涯教育は琉大の國吉幸男教授による感染性胸部大動脈瘤の外科治療です。すばらしい実績に驚きました。プライマリ・ケアコーナーでは同仁病院の宮里朝矩先生の前立腺肥大症のお話、琉大の甲斐 豊先生の未破裂脳動脈瘤の治療方針、共に分かりやすく読ませていただきました。

若手コーナーでは那覇市立病院の研修指導医の上原忠司先生、研修医の喜瀬高庸先生に投稿していただきました。両先生とも初期研修ではただ単に知識や手技を習得するだけではなく、医師としての人格を涵養することの大切さを述べられており、ほっとしました。

今月の随筆は石川眼科医院の石川秀夫先生のテッポウユリ考です。テッポウユリの由来を楽しく読ませていただきました。先月号の表紙写真のハナミズキも改めて御礼申し上げます。人間性豊かで紳士的な石川先生は私の憧れです。

この他、ご報告された理事、ご投稿いただいた会員の先生方、ありがとうございました。

広報委員になって12年、最後の編集後記となりました。これまで、常に何のための医師会なのかを考えながらやってきました。今後、医師会の役割を会員皆で考えていく必要があると思います。

広報副担当理事 野原 薫